4-B-1

放課後における子どもへの多角的支援に関する研究
―子ども食堂の実態調査から今後の在り方を考える―

戸谷富江[1)]

2014 年、「日本において 6 人に 1 人の子どもが貧困状態にある」というセンセーショナルな記事が新聞各紙を賑わせ、それをきっかけに子ども食堂が全国で爆発的な広がりを見せた。それから 5 年が経過し、子ども食堂に関する各種メディアでの報道は減ってきており、子ども食堂のブームはいったん終息に向かっているように見える。しかし、NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえが 2019 年 6 月に発表した調査報告では、2018 年の約 2300 ヶ所から 1 年間で約 1400 ヶ所増え、3700 ヶ所もの子ども食堂が確認されており、未だ増加傾向にある。行政や社会福祉協議会等の関係機関から子ども食堂に関するノウハウ本や事例集が発刊され、取り組みの充実が図られている。

本研究では、子ども食堂の実態調査から見えてくる各団体の抱える課題を抽出、分析し、今後の子ども食堂の在り方を考えることを目的とし、長田区内にて運営される子ども食堂において、運営形態や運営手法と現状の課題についてヒアリング調査を行い、比較検討を行う。

1） 事務局